

MCグループが新年賀詞交換会、強い企業を目指したいと阿部社長



(株)ミートコンパニオングループ(阿部徳次グループ会長)は9日正午から、立川市内のパーティーアー会場「ベースボール」において、平成22年MCグループ賀詞交換会を開催しグループの社員約200人が参集した。阿部昌史社長(写真)は「年末始の商いは、おかげさまで潤沢な仕事を頂き、取引先及び従業員の皆様に感謝したい。昨年の漢字は“新”が選ばれた。新しいものが生まれると何かが犠牲になるが、その分新しいことが生まれるので期待したい。低価格志向で安売りとどこか度を越しているので、PB商品もどこよりも安値と本来のPBから外れている。デフレ社会という厳しい中で、不況だからこそ強い企業にならねばならない。働く従業員の皆様が前に向かってエネルギーの持てる企業でありたい。グループの日本カイハツミートの新工場も12億円を投資して来春には完成するので、2010年は昨年以上に前向きな強い企業を目指し売上げも大幅に伸ばしたい」とあいさつ。また阿部会長は「良いニュースは少ないが、不況から脱出するために、不況をマイナスと取らずにプラス志向で大きく脱皮して内容の良い安定した企業にすることを約束する」と力強い決意を表明。この後、(株)二ホンカイハツミートの新役員紹介で、植村光一郎取締役の常務昇格、葉山泰弘(ミートコンパニオン管理本部部長)氏と小石伸一営業本部長がそれぞれ取締役に就任した。また平川一美取締役は相談役に退いた。乾杯の音頭は、新たに常務に就任した植村取締役が「新たな秩序が始まろうとしているが、この機運を捕まえてMCグループにとって大きな飛躍の年としたい」と発声して祝宴に入った。

着実に増収増益—エスフーズの2月期第3四半期決算

エスフーズは12日、平成22年2月期第3四半期決算について発表した。それによると、連結売上高は879億8800万円、営業利益40億8800万円、経常利益41億9800万円、四半期純利益16億9500万円となつた。会計基準などの変更があつたため前年同期比はないが、参考の昨年発表決算と比べると増収増益となつていて。厳しい経営環境のもと、同社グループでは消費者が安心して食べられる食肉製品を安定的に届けることが最大の社会的使命であるとし、事業活動を行つた。食肉の「卸売事業」では価格訴求力のある商品構成により販売数量および利益の確保に努めた。「製品事業」においては昨年から発売を再開した「こてっちゃん牛もつ鍋」が鍋物ブームに乗つて好調に推移した。「小売・外食事業」では、深刻な経営環境においても堅実に営業活動を続けることを運営の最優先課題とした—としている。事業別売上高は卸売事業452億2400万円、製品事業237億4600万円、小売・外食事業189億700万円となつていて。